

# 歴史散歩



## はせ 初瀬街道の二本木宿

津市を東西に横切る国道165号を伊賀市に向かって西に進むと、白山町二本木で近鉄大阪線と交差し、大三の交差点に至ります。この交差点を左折するとすぐに東西方向に延びる細い道と交差しますが、これが初瀬街道です。

江戸時代、伊勢神宮と大和を結ぶ道として使われた初瀬街道は、現在の奈良県桜井市を起点に宇陀市榛原で伊勢本街道と分かれ、名張市・伊賀市を通過して青山峠を越え、白山地域に入り、一志地域を経て松阪市六軒町で伊勢街道と接続します。伊勢市までの距離は宇陀市から美杉地域を経て玉城町に至る伊勢本街道の方が近いのですが、急峻な峠が多いため、比較的平坦な初瀬街道の方が、遠回りであるにもかかわらず、多くの旅人でにぎわったといわれています。

白山町二本木は江戸時代に発達した宿場町で、この地名は二股の松の巨木があったことに由来するといわれています。明和9(1772)年3月には、本居宣長が吉野へ花見に向かう途中に



地蔵堂

この宿場で休憩しており、「小倭の二本木といふ宿にて、物など食ひて、しばしやすむ」と菅笠日記に記されています。また、宿場の西部には小さな地蔵堂があります。願い事がよく叶うという言い伝えがあり、地元のみならず他所からの信者も多かったようで、堂内には石仏と五輪塔が祭られています。

現在、交通の主力は国道165号に移りましたが、街道筋には往時をしのぶことのできる町屋も残っています。梅雨の晴れ間に、宿場と街道を巡ってみたいはいかがでしょうか。



二本木のまち並み

